



エコアクション21
認証番号 000319

エコアクション21

環境経営活動レポート

(2025年度版：2024年度実績)

レポート対象期間【2024年5月～2025年4月】



鈴や商事株式会社

	2025年	9月 11日発行
最新版	2026年	1月 16日発行

目 次

- 1. 事業活動の概要……………1ページ
- 2. 環境経営活動推進概況……………2ページ
 - 2. 1 活動の経緯
 - 2. 2 環境経営活動推進組織
- 3. 環境経営方針……………4ページ
- 4. 環境経営目標と実績……………5ページ
 - 4. 1 二酸化炭素排出量の削減
 - 4. 2 水の消費量の節減
 - 4. 3 廃棄物排出量の削減
 - 4. 4 コピー用紙使用枚数の低減
- 5. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価ならびに違反、訴訟の有無…………8ページ
 - 5. 1 関連法規の遵守状況
 - 5. 2 関連法規の違反、訴訟の有無
- 6. 環境経営活動の取り組み状況と次年度計画…………9ページ
- 7. 代表者による全体評価と見直し結果・指示…………10ページ

1. 事業活動の概要

- | | | | |
|------------------|---|--|--|
| ■ 会 社 名 | 鈴ヤ商事株式会社
http://www.su-zu-ya.co.jp | | |
| ■ 所 在 地 | 埼玉県川越市新宿町4-1-4 (本社・川越事業所)
埼玉県坂戸市青木673 (坂戸工場) | | |
| ■ 創 立 | 昭和45年5月1日(1970年) | | |
| ■ 資 本 金 | 3,000万円 | | |
| ■ 代 表 者 | 代表取締役 社長 鈴木 雅晴 | | |
| ■ 環境管理責任者
連絡先 | 部長 小菅 慎也
〒350-0027 埼玉県坂戸市青木673
TEL:049-283-5858
FAX:049-283-5859 | | |
| ■ 認証・登録範囲 | 本社・川越事業所ならびに坂戸工場のサイト全域 | | |
| ■ 認証・登録日 | 2008年12月26日 (登録番号:0003198) | | |
| ■ 事業内容及び事業規模 | | | |

事業年度：5月～4月

事業内容	エアゾール製品の包装及び流通加工分野の医薬部外品・化粧品・食品等の包装 ・梱包作業の受託 ◆許認可：医薬品・医薬部外品・化粧品製造業（包装・表示・保管）、菓子製造業
事業規模 (2024年度)	● 従業員 総人数 171名 (本社・川越事業所 51名、坂戸工場 120名) ● 延床面積 総延床面積 7,060㎡ (本社・川越事業所 1,594㎡、坂戸工場 5,466㎡)

- ・当社の所有する第一倉庫、新宿倉庫、ビジネスパーク、宿東倉庫、圏央坂戸インター北倉庫、青木野積倉庫、京都出張所については、他社と不動産賃貸契約で全貸ししているので認証・登録範囲外。



2. 環境経営活動推進概況

2.1 活動の経緯

年度	推 進 概 要
2007年10月	・「エコアクション21」認証・登録に向け、環境省作成の「2004年版ガイドライン」に基づき、本年10月より準備活動を始め、運営組織・運営要領（環境マニュアルの策定、文書・記録等）を定め、環境方針を策定した。
2008年 2月 々 5月 々 9月	・ 2008年2月より「エコアクション21」の本格的活動を開始。 ・ 基準値を2007年度実績に置き換え、2008年度環境目標値を変更。 ・ 9月：登録審査を受け、12月26日に認証・登録を果たす。
2010年 4月 々 6月 々 7月 々 9月	・ 2009年度活動結果を踏まえ、「リサイクル率の向上」を環境目標から除外し、新たに「可燃廃棄物量の削減」を2010年度より導入とともに環境方針を改定。 ・ 長期環境目標（2014年度目標）を設定。 ・ 「2009年度版ガイドライン」に基づき、2009年度実績の環境活動レポートを作成。 ・ 弊社社長が川越市環境政策課及び地域事務局さいたま共催の「自治体イニシアティブ事前説明会」で弊社のエコアクション21活動取組事例を発表した。 ・ 9月：初めての更新審査を受審。審査に当たっては「2009年度版ガイドライン」に基づき実施された。特に問題なしとの評価を得る。
2011年 4月	・ 東日本大震災の影響による節電要請に伴い、電力使用量を前年度対比15%削減で設定。
2012年 4月	・ 事業内容変更（エアゾール事業から撤退）に伴い環境方針を改訂。 これにより、「化学物質の管理」項目を環境負荷項目より除外した。
2014年 4月	・ 太陽光発電稼働、売電を開始する。長期（5年）環境目標最終年度。
2015年 4月	・ 基準値を2007年度から2013年度実績に変更。第2次長期目標（2019年度）を設定。
2016年 4月	・ 2015年度実績から、従来の4月～3月サイクルから経営年度に合わせ5月～4月サイクルに変更。
2018年 5月	・ 「2017年度版ガイドライン」に基づき、環境経営方針を改訂（4版）
2020年 6月	・ 第3次長期目標（2024年度）を策定。
2022年 7月	・ 7月1日付で鈴木雅晴 代表取締役社長に就任。
2023年 9月	・ 9月1日付で小菅慎也 環境管理責任者に着任。

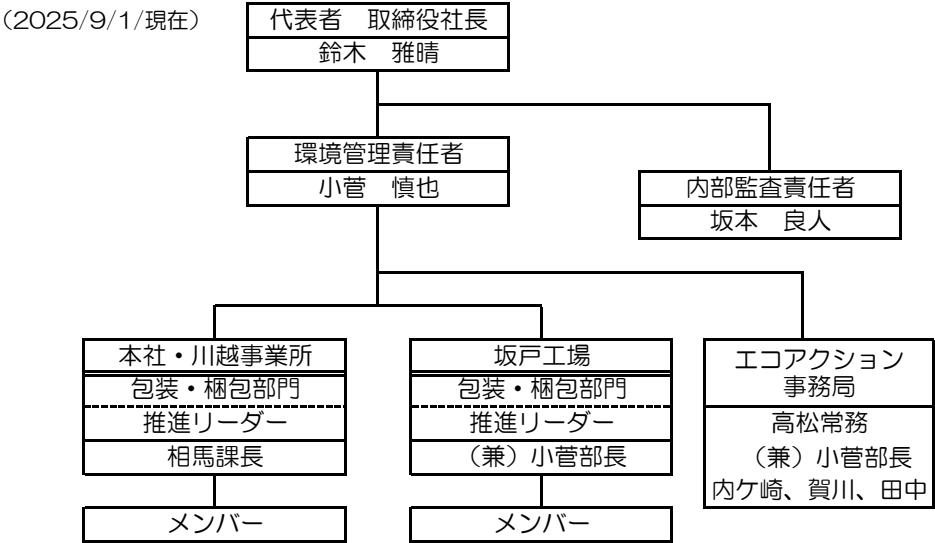
○再生可能エネルギーの取り組み

太陽光パネルを設置し、発電を開始（2014年4月23日）より



2024年度は48,754kWh発電しました。

2.2 環境経営活動推進組織



3. 環境経営方針



環 境 経 営 方 針

【環境理念】

鈴や商事株式会社は、この美しい地球が未来へと継続できるように私たちが活動する地域の環境事業活動を通じて環境保全に努め、環境に配慮した社会の実現に貢献します。

【方 針】

- 環境経営目標を定め、環境負荷の削減に努めるとともに環境経営システムの継続的改善・向上を図り、SDGs（持続可能な開発目標）についても積極的に取り組んで参ります。
- 環境に関連する法規制を遵守し、環境汚染の防止及び環境保全に努めます。
- 次の項目を重点的に取り組みます。
 - ①電気・化石燃料エネルギーの省エネに努め、二酸化炭素排出量の削減を図る。
 - ②水やペーパー類の節減に努め、資源保護に貢献する。
 - ③廃棄物総量の削減とともに廃棄物の分別を徹底し可燃廃棄物の低減を図る。
- 環境経営活動内容を社内に掲示し、従業員全員へ環境経営活動意識高揚を図る。
- この環境経営方針は、従業員全員に周知徹底するとともに、社内外に公表します。

2022年7月1日

鈴や商事(株)
代表取締役社長
鈴木雅晴

（第5版）

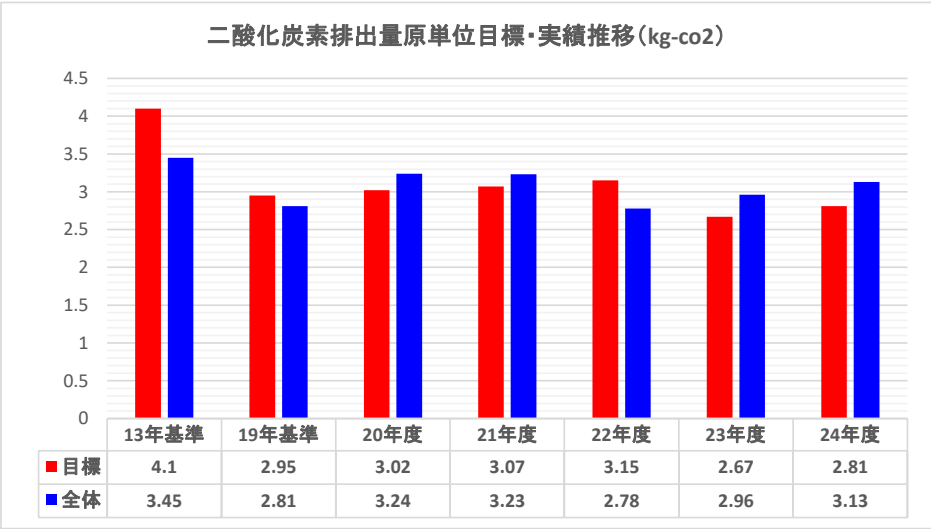
4. 環境経営目標と実績

2024年度環境経営目標・実績（2024/5～2025/4）は以下のとおり。
昨年度から引き続き新型コロナウイルスの影響による受注減は著しく、新型コロナ以前と比較して売上23%減
に対し、二酸化炭素排出量は10%しか削減できていないため、売上原単位による削減目標は達成できなかった。

4. 1 二酸化炭素排出量の削減（原単位：kg-co2/万円）

環境目標項目		項目	基準値 (2019年 度)	2024年度 実 績	2025年度 目 標	2024年度 長期目標
全体		原単位	2.81	3.13	3.06	2.06
		削減率目標（％）	---	▲0.1	▲2.2	▲26.7
		削減率（％）	---	11.1	---	---
		評 価	---	×	---	---
内 訳	電気	原単位	2.56	2.87	2.81	1.83
		削減率目標（％）	---	▲0.9	▲2.1	▲28.7
		削減率（％）	---	11.9	---	---
		評 価	---	×	---	---
	化石燃料	原単位	0.25	0.26	0.25	0.24
		削減率目標（％）	---	8.3	▲2.6	▲5.4
		削減率（％）	---	3.4	---	---
		評 価	---	×	---	---
二酸化炭素排出量(総量)(kg-CO2)			222,938	232,642	229,988	---

注）電気の二酸化炭素排出係数 0.525kg-CO2/kWh



新基準と新長期目標（二酸化炭素排出量の削減 原単位；kg-co2/万円）

環境目標項目		項目	新基準値 (2024年度)	2025年度 目 標	2026年度 目 標	2027年度 目 標	2028年度 目 標	2029年度 目 標
全体		原単位	3.13	3.06	3.03	3.01	2.99	2.98
		削減率目標（％）	---	▲2.2	▲3.0	▲3.8	▲4.5	▲4.6
内 訳	電気	原単位	2.87	2.81	2.78	2.76	2.74	2.74
		削減率目標（％）	---	▲2.1	▲2.9	▲3.7	▲4.4	▲4.5
	化石燃料	原単位	0.260	0.250	0.249	0.247	0.245	0.243
		削減率目標（％）	---	▲2.6	▲3.4	▲4.2	▲4.9	▲5.5
二酸化炭素排出量(総量) (kg-co)			232,642	---	---	---	---	---

4. 2 水消費量およびコピー用紙の節減

環境目標項目	項目	基準値 (2019年度)	2024年度 実 績	2025年度 目 標	2024年度 長期目標
水の消費 (リットル/万円)	原単位	33.9	31.3	30.3	32.2
	削減率目標（％）	---	▲16.2	▲3.1	▲5.1
	削減率（％）	---	▲7.7	---	---
	評 価	---	○	---	---
水の総消費量（m ³ ）		2,689	2,330	2,283	---
コピー用紙 (枚数/万円)	原単位	2.52	3.27	3.22	2.46
	削減率目標（％）	---	28.0	▲1.7	▲2.4
	削減率（％）	---	30.1	---	---
	評 価	---	×	---	---
コピー用紙総使用数（枚/A4）		199,454	243,558	242,040	---



新基準と新長期目標（水消費量およびコピー用紙の節減）

環境目標項目	項目	新基準値 (2024年度)	2025年度 目 標	2026年度 目 標	2027年度 目 標	2028年度 目 標	2029年度 目 標
水の消費 (リットル/万円)	原単位	31.3	30.3	30.1	29.9	29.7	29.6
	削減率目標（％）	---	▲3.1	▲3.8	▲4.4	▲5.1	▲5.6
コピー用紙 (枚数/万円)	原単位	3.27	3.22	3.19	3.17	3.14	3.12
	削減率目標（％）	---	▲1.7	▲2.5	▲3.2	▲4.0	▲4.7

4. 3 廃棄物排出量の削減 (原単位：kg/万円)

環境目標項目			項目	基準値 (2019年 度)	2024年度 実 績	2025年度 目 標	2024年度 長期目標	
全体			原単位	2.31	2.59	2.56	2.26	
			削減率目標（％）	---	▲2.1	▲1.1	▲2.20	
			削減率（％）	---	12.2	---	---	
			評 価	---	×	---	---	
内 訳	ダンボール		原単位	2.13	2.40	2.37	2.08	
			削減率目標（％）	---	▲0.1	▲1.1	▲2.40	
			削減率（％）	---	12.6	---	---	
	その他		原単位	0.179	0.192	0.187	0.180	
			削減率目標（％）	---	▲25.5	▲2.4	---	
			削減率（％）	---	7.4	---	---	
廃 棄 区 分	可 燃 廃 棄 物	廃棄量	実績・目標（kg） 月平均	527	836	819	472	
			削減率目標（％）	---	▲0.5	▲3.1	▲7.9	
		原単位	削減率（％）	---	69.0	---	---	
			評 価	---	×	---	---	
			リサイクル率		目標（％）	---	96.5%	94.9%
		実績（％）			96.5%	94.8%	---	---
評 価	---	×			---	---		
廃棄物総排出量（kg）				182,951	192,794	192,600	---	



売上高：2024年度実績 74,426 (万円)、2025年度予測 75,221 (万円)

新基準と新長期目標(廃棄物排出量の削減 原単位;kg/万円)

環境目標項目			項目	新基準値 (2024年度)	2025年度 目 標	2026年度 目 標	2027年度 目 標	2028年度 目 標	2029年度 目 標
全体			原単位	2.59	2.56	2.55	2.53	2.52	2.55
			削減率目標（％）	---	▲1.1	▲1.7	▲2.3	▲2.9	▲1.7
内 訳	ダンボール	原単位	2.40	2.35	2.36	2.30	2.32	2.31	
		削減率目標（％）	---	▲2.0	▲1.8	▲2.5	▲3.1	▲3.6	
	その他	原単位	0.192	0.187	0.189	0.192	0.192	0.234	
		削減率目標（％）	---	▲2.4	▲1.3	0	0.1	21.9	
廃棄 区分	可燃 廃棄物	廃棄量	実績・目標（kg）	836	819	818	818	807	790
		原単位	削減率目標（％）	---	▲3.1	▲0.1	▲4.6	▲6.4	▲9.0
リサイクル率			目標（％）	---	94.9%	94.8%	94.9%	95.0%	95.2%
			実績（％）	94.8%	---	---	---	---	---

5. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価ならびに違反、訴訟の有無

5. 1 関連法規の遵守状況

環境保全活動を推進するに当たり対象となる法規の2024年度の遵守状況の確認・評価は下表のとおり全て遵守した。

	法規名	適用理由	遵守事項	報告・確認・点検	遵守
1	浄化槽法	浄化槽6基	設置届・清掃・保守点検 法定検査	清掃12月、保守点検6、9、12、3月 法定検査3月	○
2	騒音規制法 振動法	コッパレッサ15kW 規制区域内	設置届・変更届・基準値	敷地境界で測定（4,10月）実施	○
3	悪臭防止法	規制区域内	臭気指数規制・敷地境界	臭気確認（2024年10月）実施	○
4	廃棄物処理法	一般廃棄 産業廃棄	マニフェスト管理・委託契約書 保管基準・特管産業廃棄管理者	管理票交付等状況報告書の提出（6月） 業者契約書有効期限の確認	○
5	自動車リサイクル法	自動車を所有	車検	自動車リサイクル券を確認	○
6	家電リサイクル法	家電品等所有	廃棄時リサイクル費用支払		○
7	70%排出抑制法	業務用エアコン使用	廃棄・移設時の回収・破壊 簡易点検、定期点検 70%類算定漏えい等の報告（一定量以上）	70%回収工程管理票と破壊証明書 を確認 簡易点検	○
8	消防法 （危険物）	危険物貯蔵所	設置許可・変更許可、設備点検 保安監督者	消火設備点検（4,10月）実施	○
9	県生活環境保全条例				
	（PM規制）	トラック等ディーゼル車所有	認定型式	認定型式設置を確認	○
	（アイドリングストップ）	20台以上の駐車場	アイドリングストップ 掲示	掲示の確認	○
	（地下水汲み上）	第1種規制地域	設置届・変更届、採取量報告等	採取量報告書提出（1月）	○

5. 2 関連法規の違反、訴訟の有無

事業活動における中で、環境関連法規への違反及び近隣からの訴訟は過去3年間ありません。
また、関係当局から違反等の指摘、近隣住民からの訴訟も過去3年間ありません。

6. 環境経営活動の取り組み状況と次年度計画

2024年度の取り組み状況と2025年度の活動計画は以下のとおり。

6. 1 二酸化炭素排出量の削減		
2024年度実績と取り組み状況		2025年度計画
①冷暖房運転管理の徹底 作業場の温度管理（夏季25℃以上、冬季19℃以下）で管理されていた。 ②消灯の徹底及び不要設備の運転禁止 朝礼等で全従業員に指導し、休憩時や作業終了時後の消灯機器・設備停止の徹底ならびに注意喚起を継続して行った。 ③電力のデマンドコントロール 年々夏場の気温が上昇していることで、事務所、作業場ともにエアコンがフル稼働しても適温まで下がらずデマンド値の設定値を上げざる負えなかった。 ④機械更新による省エネ化の推進 エアコンを主とした機械旧設備の更新を検討したが、予算が確保できなかった。	①項は継続して推進する。 ②項は継続して推進する。 ③項は継続して推進する。 ④項は継続して推進する。	
評価	年々上昇する夏場の気温によるエアコンのフル稼働により削減目標未達に終わった。	

6. 2 水消費の節減		
2024年度実績と取り組み状況		2025年度計画
① 手洗い時の節水、水の出っ放し禁止の励行。 ② 散水の定期化 不要な水撒きを控え、計画的に推進した。 ③ 漏水管理の徹底管理を行った。 水栓トイレボールタップの止水を確認。	①、②、③項は継続して取り組む。	
評価	不要な水撒きを禁止したことにより、削減率はますますの結果だった。	

6. 3 廃棄物排出量の削減		
2024年度実績と取り組み状況		2025年度計画
①分別廃棄の徹底と教育 定期教育の徹底と朝礼でゴミ箱を開け、分別状況を見せて指導を行った。 ② 可燃廃棄物量の削減 分別によるリサイクル（再資源）化を朝礼で指導した。	①、②項は継続して取り組む。 ②項は実績値と原単位の両方で評価する。	
評価	作業内容の変化によりリサイクル化が難しい廃棄物も増加し可燃物の排出量が増加した。	③リサイクル率も指標として管理する。

6. 4 コピー用紙枚数の削減		
2024年度実績と取り組み状況		2025年度計画
①資料配布の低減 ・ 資料配布はできるだけ両面印刷で節減に努める。 ・ 品質向上から仕様書類、画像、イラストなどのラインへの 掲示物が増加したことにより、使用枚数が大幅に増加。 ②両面コピーによる再使用の推進 社内文書等はあるべく裏面を活用させ、またメモに使用してい る。		①、②項については継続して推進する。
評価	品質資料配布の増加により目標未達で終わった。	

6. 5 環境保全に関する教育の推進及びその他活動		
2024年度実績と取り組み状況		2025年度計画
①環境経営活動に向けての意識の向上 ・ 幹部に対しては会議を通じて活動状況・実績等を報告・ 共有化を計り、意識の向上に努めている。 ・ 従業員に対しては朝礼の場を活用して意識の向上を図る。 ②グリーン購買対象品の拡大 対象があれば推進している。 ③内部監査の実施 4月に実施し環境活動状況等を確認した。		①項は継続して推進する。 ②項も継続して推進する。 ③項は継続して実施する。
評価	ベテラン従業員は、エコ活動が浸透できているが、新人や外国人 派遣従業員への教育が課題。	

7. 代表者による全体評価と見直し結果・指示

代表者による全体評価と見直し結果・指示

- 1) 2024年度は、新型コロナも落ち着き元の状態に戻ると思いきや、世の中の変化も早く、
受注状況も予測したほど伸び悩んだ結果に終わった。
- 2) 環境関連法規の計画的な点検と当局への報告等、各法規は遵守されていることを確認。
- 3) 「2017年ガイドライン」に沿って当環境経営システムが運用されていることを確認した。
- 4) 環境目標の結果については、ほとんど未達となってしまった。特に年々夏場の気温が上昇
していることで電気の使用量が増加している。
- 5) 昨年に引き続き、このエコアクション21の環境経営活動は、SDGsの取組みの一部でも
あることから、アイデアを出し合って環境目標を達成できるよう努力しましょう。また旧設備
の更新には費用がかかります。日々の生産活動にもミスなく効率よく生産を行うことで設備
投資も可能になります。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

以上